

YMCA 大阪青年

4

2020年4月1日発行
1916年5月1日創刊
発行/小川健一郎
編集/大阪YMCA広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

二つの自然を生きる



堺市立青少年の家チアリーディングクラブのメンバーがピンクシャツデーをアピールしました。

私たちは、古来それぞれの暮らしの基盤となる気候風土に沿って、自らも大きな生命システムの一部であることを受け入れ、季節や暦に相応しい行事や催事を過ごしてきました。現代社会では、そのような自然環境に則した節目だけでなく、人々の営みを発展的に捉える「事業年度」といった社会的な節目を組み合わせ、子ども期の成長や社会生活や仕事の成果を意識しながら、人生を前へ進めていきます。経済学者の暉峻淑子さんは、このような大自然の一部としての人間存在を「第一の自然」、人間社会の科学、技術、生産などにかかわる営みを「第二の自然」と捉えるソーシャルエコロジーの考え方に立ち、人間が自分を全体として生きることが、この二つの自然が統一され、共存の中で生きることを意味し、それが豊かさ感という幸せをもたらす、と述べています(暉峻淑子『豊かさとは何か』岩波書店、1989年)

「自分を全体として生きることが豊かさ感という幸せをもたらす」とは、「全人的な成長」

を願うYMCAが大切にしているメッセージそのものです。二つの自然がバランスを失い、第二の自然が第一の自然を蹂躪(じゅうりゆう)するとき、いのちのシステムに根差す人間性は深く侵されます。平和構築と環境保全、そして格差是正と人間の共生が願われたはずの21世紀は、飽くなき兵器開発による戦争産業によって国家間の枠組みを超えた戦闘行為を持続させ、自らの信仰と倫理観を生き抜いた中村哲さんの命をも奪いました。異常な気候変動をもたらす経済開発への50年前からの警鐘に聴こうとしない私たちは、すでに干ばつ、大雨、津波、放射能汚染によって取り返しのつかない命を失いました。そして、システムやマニュアルに支配された非人間的な態度や無関心は、子どもの世界にまでいじめの構造を広げ、私たちの心を蝕んでいます。

第一の自然から発した新型コロナウイルスによる感染症を、第二の自然の力でねじ伏せることの困難を私たちは突きつけられています。年度末に進級、卒業、退職などの大切な

節目を祝い記念する時間を持たず、新年度の新しい節目を気持ち良く迎えることのできない多くの方たちが身近におられます。この悲しく不安な事態を長期的に回復(かいふく)させるために、二つの自然を対立的に捉えず、調和とかかわりをもって全人的にアプローチするYMCAが、その人とネットワークとノウハウをもって具体的なプログラムを実践していく時だと思えます。

全人性=ホリスティック(holistic)なあり方とは、キリスト教に根差した概念であり共通理解です。今は、キリスト教の春の節目、いのちの復活と奪われたものの回復(かいふく)を憶えるイースターの季節です。



大阪YMCA
会長
いwasaka に き
岩坂 二規

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

ピンクシャツデー (Pink Shirt Day) 2020

～いじめのない世界をめざそう～

2020年2月26日(水)



参加のべ人数:10,237人

いじめをなくす取り組みとして、全国のYMCAが行動を共にするピンクシャツデーの活動も今年で5年目。大阪YMCAでは「いじめのない世界」をめざし、全事業所・活動拠点で様々な取り組みが行われ、大阪YMCA国際専門学校高等課程 表現・コミュニケーション学科の特別授業は複数のメディアで取り上げられました。また、今年も文部科学省や地方行政機関の後援、企業・団体や地域の皆様からの協賛と賛同により、広く活動を展開し、多くの人へ「いじめ反対」のメッセージを伝えることができました。感謝とともにご報告いたします。

全国YMCAピンクシャツデーのポータルサイト

<https://sites.google.com/a/japanymca.org/pinkshirtday/>



大阪YMCAでの主な取り組み

いじめを考える特別授業

3年生「先輩たちが安心できる空気を」
1・2年生「3年生になったら先輩をサポートしたい」

大阪YMCA国際専門学校高等課程 表現・コミュニケーション学科

表現・コミュニケーション学科では、1~3年生を縦割りして小グループに分けて「いじめ」について考える時間を持ちました。過去の辛い体験から一人ひとりができること、また、伝えられることがあることに気付くことを目的としました。例年は3年生だけの取り組みでしたが、同じような体験をした先輩が、主体的に後輩との話し合いをサポートすることで、より効果的な気づきと学びがあると考えました。

3年生のリーダーは、「先輩たちが安心して話せ、話せたことに感謝できる空気を作ろう」と、事前準備を進めました。当日、一人ひとりが「いじめ」について考え、想いを分かち合うことができました。

3年生の温かいリーダーシップに、緊張していた1・2年生からも「自分が3年生になったら、あんな風に先輩をサポートできるようになりたい」という声があがるほどでした。身近に辛い経験をしてきた先輩が、それらの体験を強さに変えている姿を見て、1・2年生は大きな勇気を得たようです。

この特別授業は、朝日新聞では「ピンクの結末」として全国版の夕刊一面、また読売テレビ「かんさい情報ネットten.」、テレビ大阪「やさしいニュース」で取り上げられました。共感が広がっていくことを願っています。

(表現・コミュニケーション学科 スタッフ 橋本 健)



2/22 朝日新聞夕刊1面にピンクシャツデーの広がりとして紹介されました。
(朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。(20-1030))

多様な取り組みが実施されました!



南YMCAでは留学生と児童が取り組みを共に サンホームのシニアの皆さん 学院高校のイベント「多様性を認め合う」 ランゲージセンターの中高生の皆さん アクアティック(水泳)クラスの皆さん 徳島YMCAサッカークラスの皆さん

指定管理施設での取り組み

堺市立青少年センター・青少年の家

堺市より指定管理者として運営を任されている堺市立青少年センター(堺市堺区)、青少年の家(堺市南区)でもピンクシャツデーの輪が広がりました。YMCAの主催事業である英会話やダンス、サッカーなどの各クラスでは、いじめについて考える時間を持ち、それぞれの想いをメッセージカードに記しました。両館のロビーに設置した大きなメッセージボードには、収まり切れないほどのたくさんのメッセージが集まり、貸館利用や併設施設のご利用で訪れた方々もじっと見入っていました。



堺市立青少年センター英会話クラスの皆さん

また、堺市若者支援事業として若者の居場所づくりを展開している「さかい場Café」でも、10代から20代の若者がピンクシャツデーを通していじめ問題に向き合い、傍観者にならず声を上げていくことの大切さを共有しました。

指定管理施設を通して地域にピンクシャツデーが浸透していくことで、いじめのない世界へとつながることを期待しています。

(堺市立青少年の家 所長 北澤 圭太郎)

外部機関・企業・団体の後援・協賛・参画

ピンクシャツデーを社会的なムーブメントにするために、今年も所在地の行政機関、学校や幼稚園・保育園等の教育機関、企業・団体、その他地域の方たちへの働きかけを行い、多くのご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

1. 学校・教育機関などでの取り組み

- ・阿南市立椿泊小学校
- ・阿南市立椿小学校
- ・阿南市立椿町中学校
- ・阿南市立山口小学校
- ・椿保育所
- ・カトリックさゆり幼稚園
- ・樟蔭幼稚園
- ・池田市教育委員会
- ・みくま幼稚園
- ・千里山グレース幼稚園
- ・東豊中幼稚園
- ・とよなか文化幼稚園
- ・天王学園幼稚園
- ・枚岡カトリック幼稚園
- ・アサンプション国際幼稚園
- ・山手幼稚園
- ・四国大学附属認定こども園
- ・認定こども園めぐみ幼稚園めぐみ保育園
- ・わかさ幼稚園
- ・阿南聖母幼稚園
- ・みどり保育園
- ・大阪市立水都国際中学校・高等学校

2. 企業・団体の協賛・協力

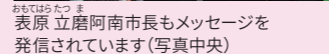
- ・阿南商工会議所
- ・株式会社イマイチ
- ・エフエムびざん
- ・大阪総合教育支援研究所
- ・J-GREEN SAKAI
- ・ソフトバンク株式会社
- ・高槻市学校開放協議会
- ・株式会社ネリーズ
- ・パイン株式会社
- ・万博フットサルクラブ
- ・ふる里
- ・美原工業株式会社
- ・日本女子プロ野球機構

3. 後援

文部科学省/大阪市教育委員会/堺市・堺市教育委員会/
東大阪市教育委員会/阿南市教育委員会



阿南市立椿小学校の皆さんは毎年の取り組み



表原 立磨阿南市長もメッセージを発信されています(写真中央)



ソフトバンク株式会社様は全社での参加



美原工業株式会社の皆さんは重機までピンク色

ユースエンカウンターで世代を超えたつながりを

YMCA総合研究所 副所長 重信 直人



エンカウンターとは「出会い」を意味します。自分に出会う、他者に出会う、人生に出会う。

「出会い」は人間の成長を促進します。若手スタッフやユースボランティアリーダーがエンカウンターのプロセスを通じて能動的に成長することを目的に、25名のリーダーOB・OGやYMCA学校卒業生の方々に訪問し、インタビューを行いました。

インタビューを担当したユースリーダーは緊張したという感想を持つ中、次のような言葉が心に残ったと語っています。

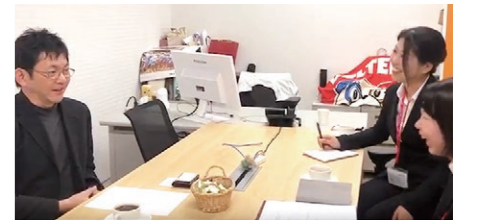
▶チャレンジできる環境があることは、とても大切。計画を最後までやりぬく経験は、自分の成長の大きな財産となる。新しいことを創るのはしんどい、でも楽しい!!

▶他業種・他業界から新しい発想が生まれるため、これからも多くの人とつながることが大切。また、仕事をやる上で、関わる人が同じ方向を見るためにコミュニケーションをとることが大切。これは、チーム

を構築することに大きく役立つ。

▶大人が魅力的なら子どもは育つ。「こんな大人になりたい」と思えるように、生きること・働くことを楽しんでいる姿を子どもたちに見せることや「面白いがる能力」が大切。YMCAは面白そうと思ったことをやってみて面白く感じる体験をしやすい環境である。

エンカウンターを通して、生き方の広がり・深まり・豊かさのためのヒントが得られたようです。このような機会を今後も大切に創っていきます。



むっちゃ久しぶりやん! 堺YMCA同窓会

YMCA総合研究所 アンバサダー 小寺 規久子



堺YMCA同窓会が2月16日(日)、南YMCAで開催されました。堺YMCA初期の大仙町時代のレジェンドから2010年代に活躍した若手まで、リーダー、実習生、スタッフのOB・OG、ワイズ、メンバー等107人が大集結しました。

この会に合わせて帰郷した方もいれば、子どもを連れて家族総出で訪れた方、同期一同で準備段階から参加した方々も。「今、堺YMCAはどうなっているのかな」「短期間しか活動しなかったけど懐かしくて」「子連れ参加は心配だったけど、さすがYMCA。

みんな子ども好きで安心しました」「この雰囲気が好きなんです」と口々に懐かしさをおぼやかしめました。会は各年代の参加者紹介、堺地域担当スタッフによる現在の堺YMCAの活動紹介と進み、懐かしのキャンパソングを歌い、チクサクコールをもって散会しました。また開催できることを願っています。



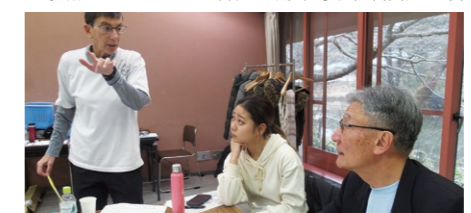
第20回中日本地区YMCAグローバル教育研修会

グローバル事業推進室 スタッフ 北田 まあや



2月1日(土)・2日(日)に六甲山YMCAグローバルラーニングセンターで第20回中日本地区YMCAグローバル教育研修会が開かれました。今回は、大阪YMCA、神戸YMCA、富山YMCA、和歌山YMCAから高校生、ユースリーダー、留学生、学Yメンバー、スタッフが参加しました。また、神戸、滋賀、奈良、名古屋の各

YMCAを支援するワイズメンクラブからの参加もあり、参加者は29名となりました。講師には神戸大学のロニー・アレキサンダー先生をお招きし、「ジェンダーと平和」というテーマでワークショップを通して、ダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包摂)について学びを深めました。



今回の研修会で、考えや視点が異なってもその違いを尊重すること、社会の不平等を当たり前だとは思わず、不利な面を感じている人(マイノリティー)は違和感を声に出すことが重要だと学びました。ジェンダーという社会的問題は、女性だけの問題ではなく、マイノリティーの問題として取り上げられるようになればと思います。

ランニングを始めませんか

つだ あきお
土佐堀事業長 津田 晃男

ランニングする人の姿をよく見かけられるようになりました。ランニング人気が高まったのは、第1回東京マラソンが開催された2007年以来、全国各地で市民マラソン大会やランニング会が増加しました。しかし、ある調査報告書によれば、ジョギング・ランニングを年1回以上した人の推計は、2012年では過去最高の1009万人でしたが、4年で100万人以上の方がジョギング・ランニングをやめてしまい、2016年には893万人となりました。

なぜランナーは減少したのでしょうか。調査によると、ランニング離れは週2回以上走るランナーではなく、年1回以上のお試しランナーに起こっているようで、「仲間がない」「ウェアを揃えるのが面倒」「けがをした」「時間がない」「記録が伸びない」などが走らなくなった理由に挙がっています。働いている方は、仕事の忙しさなどもランニング離れの理由かもしれません。

新年度が始まりました。新たな気持ちで、帰宅前に土佐堀YMCAウエルネスセンターから土佐堀川沿いに中之島をランニングしてみたいかでしょうか。

キャンプ100 大阪プロジェクト
海洋教育とSDGsキャンプ

小中学校の新学習指導要領の解説にも取り上げられている「海洋教育」。その第一人者でもある東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授の日置光久さんをお迎えし、「海洋教育」の意義や取り組み、その可能性についての講演とワークショップを行います。

また今年「YMCA組織キャンプ100年」を迎えたのを機に、海洋教育を取り入れて新しくデザインした「SDGsキャンプ」は、社会課題に対し、自らの実体験を通じてSDGsの本質を理解し、「生きる力」を育むことが期待できます。長年、海洋スポーツを中心とした社会教育を実践しているYMCA阿南国際海洋センターの担当者が、その可能性についてお話しします。

【日 時】 2020年4月26日(日) 14:00~17:00(開場13:30)

【場 所】 大阪YMCA会館 2階ホール
〒530-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6【対 象】 自治体・学校関係者・企業(CSR・人事・研修)担当者
社会教育担当者・一般

【定員・参加費】 200人・無料(先着順)

【応募方法】 応募フォーム
<http://t.asahi.com/sdgscamp>

【応募〆切】 2020年4月22日(水)

【主 催】 大阪YMCA

【共 催】 SDGsキャンプ実行委員会

【後 援】 朝日新聞社、近畿日本ツーリスト関西、
大阪府キャンプ協会、大阪府教育委員会、
大阪市教育委員会、阿南市、阿南市教育委員会、
関西SDGsプラットフォーム、
(公財)全国修学旅行研究協会

【協 力】 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

【問い合わせ】 朝日新聞大阪本社代表室CSR推進 (平日10時~18時)
tel:06-6201-8700 mail:ocsr-sdgs@asahi.com

※新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または延期の可能性があります。

2020年度大阪YMCA
年間聖句・年間讃美歌 決定

2020年度 年間聖句

「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。」

(エペソ人への手紙 4章32節 新改訳2017)

選考理由

「いのち」や「こころ」を想うあたたかい気持ちの大切さが示されているわかりやすい聖句です。人と人だけではなく、神様との関係も示されています。多様な課題を抱える社会にあっても、この聖句に示されたイエス・キリストの生き方を目標に、課題解決に向けての取り組みを実践し、「希望」を持って共に生きる社会の実現を目指すYMCAでありたいと願います。

2020年度 年間讃美歌

讃美歌21-520番

「真実に清く生きたい」

選考理由

YMCAの基盤であるキリスト教を明確に示している讃美歌です。私たちのすべきことを誠実に、謙虚に実践していく道が示されていて、勇気を与えてくれます。また、年間聖句ともよく共鳴しています。

大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAのさまざまな場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第324回 日 時... 2020年4月17日(金) 7:30~8:30

奨 励... 辻 マリアさん
(ホーリーバイブルチャーチ伝道師)

場 所... 大阪YMCA会館 10階 チャペル

※新型コロナウイルス感染症の状況により、中止の可能性があります。

大阪YMCAクリスマス献金へのご協力ありがとうございました。

富田 翔太

(敬称略)

会員・賛助会員としてのご協力に
感謝申し上げます。

2020年2月度報告・敬称略

【新規会員】

加藤 夏実
川村 千夏
桐山 泰典大東 義史
岡田 里佳子
河合 美保
川端 康博菅 秀晃
鈴木 えみ
勢井 智子
鉄谷 明八木 恒朗
山口 ひかる
山辺 聡子
吉田 晴津子

【継続会員】

出原 廣太
上床 敦
大石 和秀木下 康生
酒井 哲雄
笹田 英生
小路 清一

【継続賛助会員】

長谷川 ゆかり
弘田 優子
松本 祐香史
水口 美里朝陽電気株式会社
株式会社藤木工務店大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧いただけます。